



# 営農NEWS



## 夏まきレタスにおける茎葉病害の薬剤防除

今年の 8 月下旬～9 月上旬にかけては、梅雨明け後の高温も治まり、適度な降雨もあって、夏まきレタス栽培での、圃場づくりや定植などには適した年となりました。しかし、気象 1 カ月予報（9 月 4 日発表）によりますと、今後とも「天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう」と予想されており、レタスの各種病害が発生しやすい多湿な圃場環境になる恐れがあります。

レタスは病気が発生しますと、急速に病勢が伸展し、変色、腐敗、枯死へと進むため、病徴から病原の診断を行うことがかなり難しい作物の一つです。しかし、薬剤防除を実施する場合には、病害診断を適切に行い、発病している病害に対して有効な薬剤を選択して効果的な防除対策を行う必要があります。

良品質のレタスを安定して収穫するため、常に圃場をよく観察して、病害の早期発見や防除に努めてください。

### <病害を診断するポイント>

レタスの主要な病害として、細菌による腐敗病、軟腐病、斑点細菌病があり、カビによるすす枯病、菌核病、灰色かび病、べと病などがあります。これら病害の大きな違いは、前者にはカビが発生しなく、後者ではわづかでもどこかにカビや菌核などが確認されることです。

また、レタスの病害は、栽培中の天候の影響を受けて、時期によりまた年次によりかなり発生量が違ってきます。平年と比較して気温がやや高温～高温で降雨が多いと腐敗病、軟腐病、すす枯病の発生が多くなり、逆に、やや低温～低温で降雨が多いと菌核病、灰色かび病、べと病、斑点細菌病が多くなる傾向があります。これらも病原菌を推定する参考になります。

なお、各病害の正確な診断には、写真等のある参考書などを参照しながら、圃場で多くの被害株を丁寧に観察し、その特徴を探し出すことが重要となります。

### <防除のポイント>

- 1 細菌病の防除薬剤としては、有機銅（キノンドー、ヨネポンなど）や無機銅（Zボルドーなど）剤などを予防散布し、発生直後から合成抗細菌剤の有効成分オキシニック酸（スターナ）およびその混合（カセットなど）剤やストレプトマイシンなど抗生物質（アグリマイシンなど）剤を用いて防除します。
- 2 カビの病害では、病原菌の種類によって有効薬剤が異なってきます。ただし、菌核病と灰色かび病は同一薬剤で防除がほぼ可能です。なお、灰色かび病は薬剤耐性菌が発現しやすいため、ローテーション散布を行うことが重要です。べと病は育苗中に発生することが多いため、育苗中の丁寧な観察が必要になります。

表 1 レタスまたはリーフレタス病害の主な防除薬剤（平成 26 年 9 月 8 日現在）

薬 剤 名	すす枯病	菌核病	灰色かび病	べと病	腐敗病	軟腐病	斑点細菌病
バリダシン液剤 5	○●				○●	○●	
モンカットフロアブル 40	○●リ						
リゾレックス水和剤	○						
アフエツフロアブル	○●	○●	○●				
ファンタジスタ顆粒水和剤		○●	○●				
ゲッター水和剤		○	○				
スミレックス水和剤		○	○				
ロブラール水和剤	○	○	○				
シグナムWDG	○●	○●	○●	○●			
トップジンM水和剤		○●	○●				
ダコニール 1000	○●リ			○●リ			
ランマンフロアブル				○●			
アグリマイシンー100					○		
カセット水和剤					○	○	○
スターナ水和剤					○●リ	○●リ	
キノンドーフロアブル					○●	○●	○●
カスミンボルドー					○●		○●
ヨネポン水和剤				○●リ	○●リ	○●リ	○●リ
Zボルドー				○●	○●	○●	○●

注) 表中の○印はレタス又は野菜類で、●は非結球レタス又は野菜類、●リはリーフレタスで登録があることを示します

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040